

都市再生整備計画 事後評価シート
函南東駿河湾環状道路周辺地区

平成31年3月

静岡県函南町

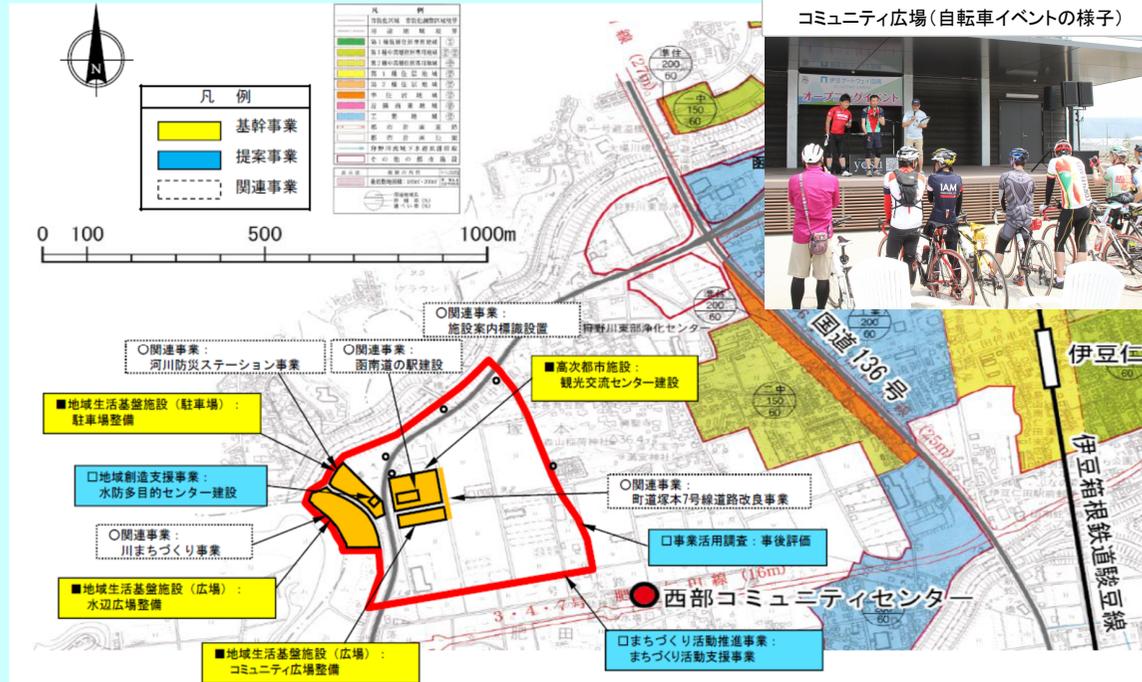
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	静岡県		市町村名	函南町		地区名	函南東駿河湾環状道路周辺地区			面積	22.5ha	
交付期間	平成27年度～平成30年度		事後評価実施時期	平成30年度		交付対象事業費	693百万円	国費率	0.4			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名									
			基幹事業	観光交流センター(高次都市施設)、コミュニティ広場整備(地域生活基盤施設)								
	当初計画から削除した事業		提案事業	まちづくり活動支援(まちづくり活動推進事業)、事後評価(事業活用調査)								
			事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
	新たに追加した事業		基幹事業	道路(町道塚本7号線)			重点道の駅に選定され、交付金メニューを伊豆地域 道の駅機能強化整備計画に移行したため。			事業内容に変更はないため指標への影響はなし		
			提案事業	地域創造支援事業(施設案内標識設置)			同上			同上		
	交付期間の変更		当初	平成27年度～平成29年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		影響なし				
変更			平成27年度～平成30年度									
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	指標1	主要観光施設入込客数	人/年	594.483	H25	627.000	H30	732.000	○	ありなし	町内の主要観光施設として、「道の駅」の入り込み客数が増加に繋がった。	-
	指標2	道の駅の町民雇用人数	人	0	H26	18	H30	32	○	ありなし	道の駅の利用者が想定以上に多く、町民を含む雇用者数の増加に繋がった。	-
	指標3	避難場所までの到達時間	分	28	H26	11	H30	11	○	ありなし	道の駅の新設により、洪水時に一時的な避難が可能で、より安全な広域避難所等の中継地点となりえる場所までの到達時間の短縮を実現している。	-
	指標4	-								ありなし		
指標5	-								ありなし			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	その他の数値指標1	-										
	その他の数値指標2	-										
その他の数値指標3	-											
4)定性的な効果発現状況	<p>・道の駅のオープンイベント(平成29年5月)では、会場イベント、自転車イベント、ラジオ放送などを実施し、伊豆の玄関口として、道の駅ひいては函南町の存在をPRできた。</p> <p>・まちづくり活動支援事業により、「道の駅」スタジオからのラジオ放送イベントや自転車等のイベントを定期的に開催しており、函南町名の知名度向上に寄与している。</p> <p>・「道の駅」の来場者による相乗効果を期待して、民間企業『かねふくめんたいパーク』が隣地に企業進出しており、年間利用者数約80万人を見込んでいる。「道の駅」としても、更なる賑わいや地域効果の発現が期待される。また、『かねふくめんたいパーク』の雇用者のうち20人が町民となっており、更なる町民雇用人数の増加が期待される。</p>											
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等	
	モニタリング	-				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	住民参加プロセス	-				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	持続的なまちづくり体制の構築	-				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						

様式2-2 地区の概要

函南東駿河湾環状道路周辺地区(静岡県函南町) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
函南道の駅(交流・雇用の創出・防災拠点)を核とし、災害に強い、地域経済の活性化を図るまちづくりの推進	主要観光施設入込客数	単位:人/年	594,483 H25	627,000 H30	732,000 H30
	道の駅の町民雇用人数	単位:人	0 H26	18 H30	32 H30
	避難場所までの到達時間	単位:分	28 H26	11 H30	11 H30



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅「伊豆ゲートウェイ函南」の来場者により、地場産品の消費が増加し、町の賑わいづくりに貢献している。また道の駅を拠点とする、まちづくり活動支援事業(ラジオ番組バスツアー(40人)やサイクルラリー等(100人))の実施により、町内観光資源や伊豆半島ジオサイトへの誘導を実施している。 道の駅「伊豆ゲートウェイ函南」における町内の雇用者数は、当初目標としていた18人を上回る32人(平成29年度)となっており、平成30年度はさらに増加が見込まれている。 道の駅「伊豆ゲートウェイ函南」は、洪水時に一時的な避難が可能であり、より安全な広域避難所等へ移動する中継地点としての利用が可能な場所である。洪水時に使用不可となる西部コミュニティセンターの代替として、一時的な避難が可能な場所までの到達時間の短縮を実現している。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 平成31年4月以降に供用予定である水辺広場の活用により、親水の憩いの場として利用者の利便性を図る。 平成31年4月以降に供用予定である水防多目的センターを拠点とする地域防災活動の実施等により、町民の防災意識の向上を図る。